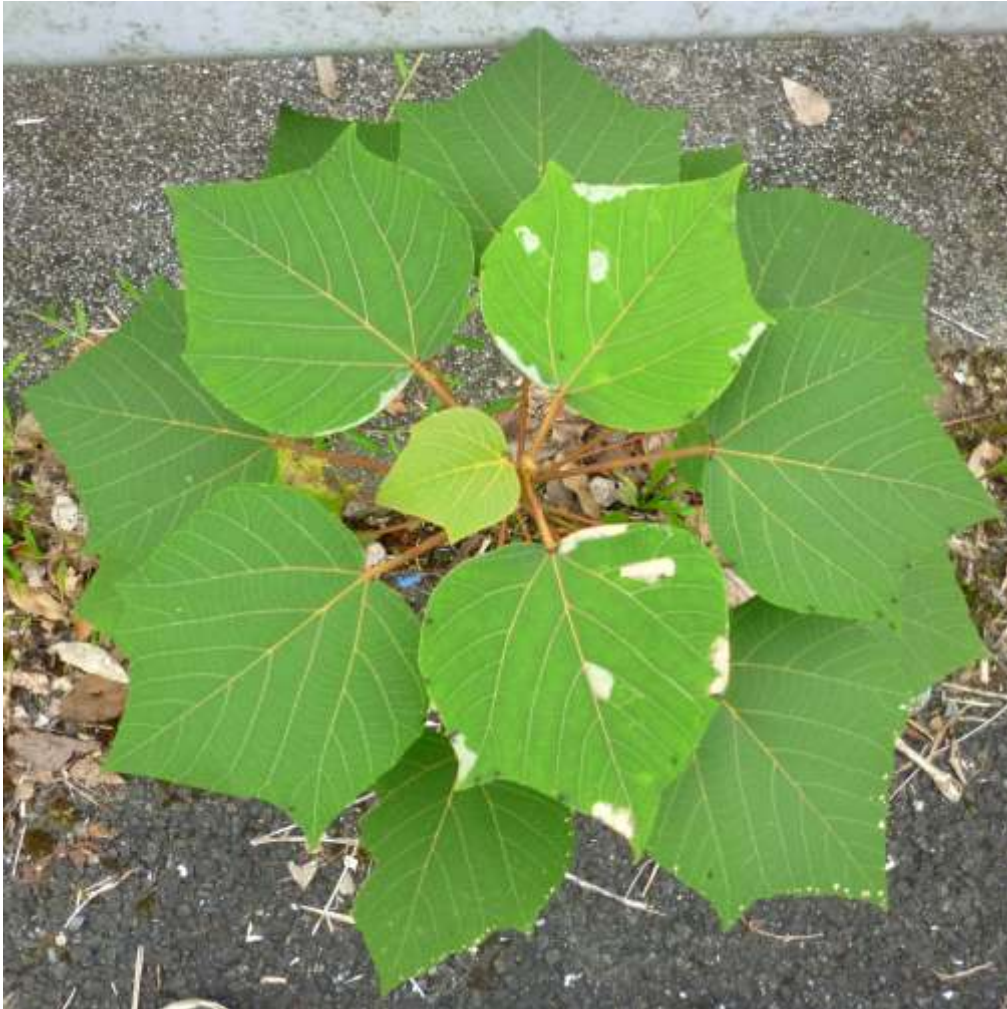


アカメガシワの葉序観察

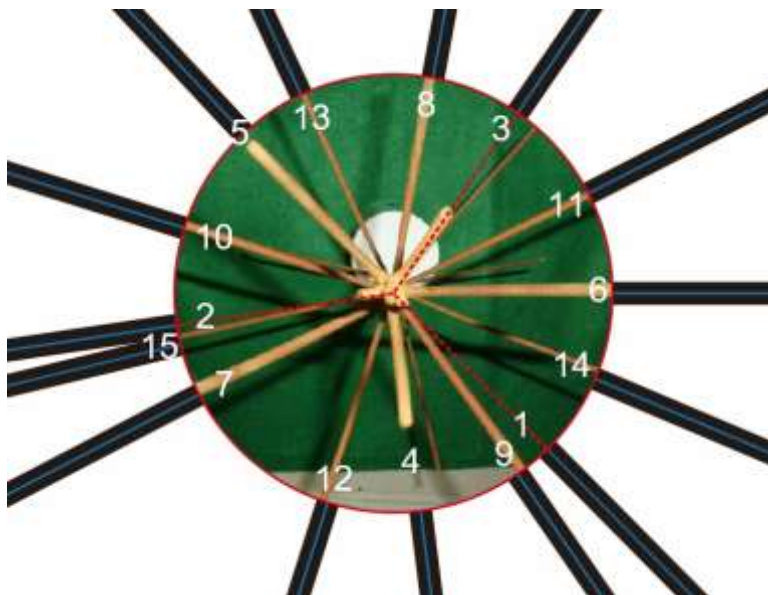
積み木インテリアギャラリー

山崎憲久

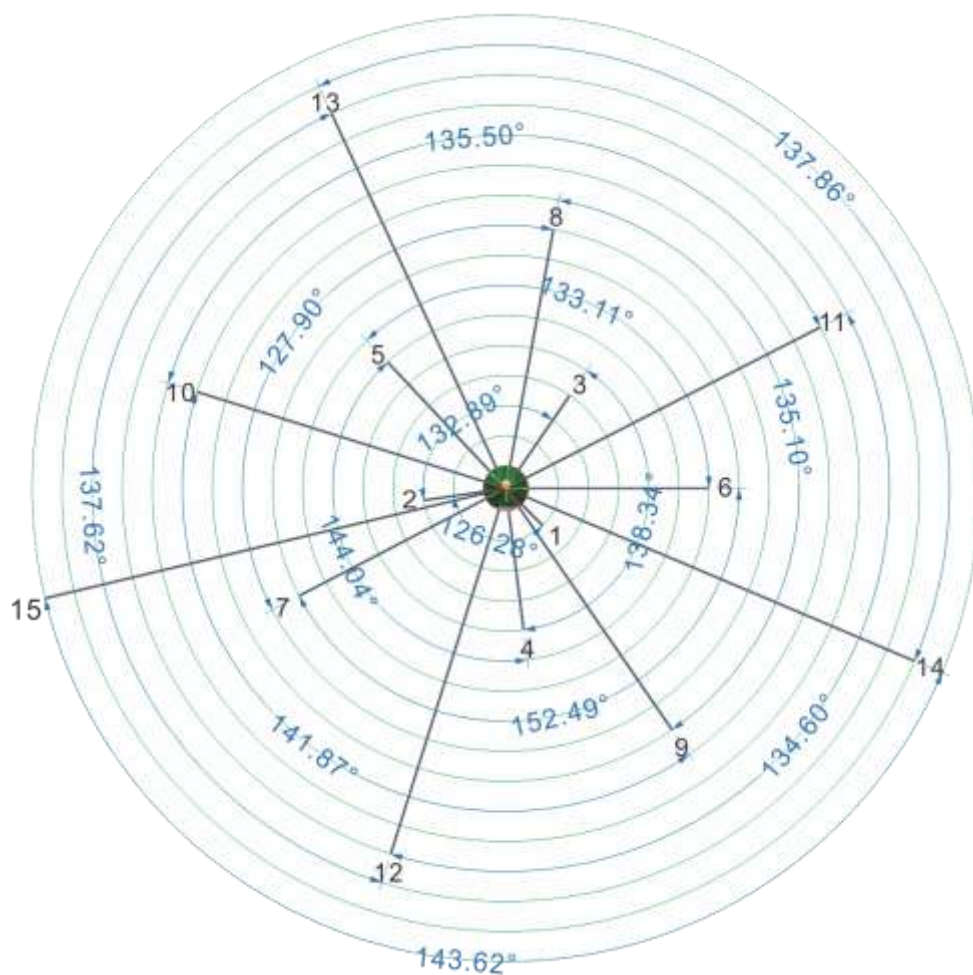
散歩の途中で大変美しい葉序をもつアカメガシワの幼木を見つけた。



ご覧のように、アスファルトの隙間から芽を出して数か月のものだ。
早速採取して、葉柄の開度を調べてみた。



初期の葉柄には成長後の角度変化が見られたので、一番若いものから15本を中心から出る直線に置き換えて、描画ソフトで開度表示してみた。



1-2	126.28
2-3	132.89
3-4	138.34
4-5	144.04
5-6	133.11
6-7	152.49
7-8	127.90
8-9	135.10
9-10	141.87
10-11	135.50
11-12	134.60
12-13	137.62
13-14	137.86
14-15	143.62
平均開度	137.23 度

このように、平均開度 137.23 度が得られた。

長年の研究で、螺旋葉序の大半は黄金角の 137.52 度に近い開度を持つことが知られているという。

また、1850 年代に提唱されたフィボナッチ数列を基礎とするシンパー・ブラウンの開度則

$$\frac{1}{2}, \frac{1}{3}, \frac{2}{5}, \frac{3}{8}, \frac{5}{13}, \frac{8}{21}, \dots$$

$$\text{の } \frac{8}{21} = 137.14 \text{ 度}$$

に近似しているともいえよう。

やはり美しいものには訳がある。